

第2学年1組 道徳 学習指導計画

指導者 中川 雅道

単元名 グローバリゼーションについて考える

1. 日時 平成27年2月6日(金) 公開授業Ⅱ

2. 場所 B棟4階 集会室

3. 単元設定の理由

(1)教材観

本校は教育目標として「国際的視野を持ち、未来を切り拓くグローバルキャリア人の育成」を掲げている。しかし、グローバリゼーションと呼ばれる概念は必ずしも明瞭なものではなく「グローバリゼーションとは何か」という問いは21世紀に生きる我々に課されている。中学校学習指導要領の第3章道徳には次のような内容項目がある。「4-(9)日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する」。「4-(10)世界の中の日本人としての自覚をもち、国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する」。この二つの項目は果たして両立するのだろうか。日本か、それとも世界か。この問いはグローバリゼーションそのものを問うことにつながり、本校教育目標である「グローバルキャリア人」についての理解を深めることにもつながると考え、本単元を設定した。

二つ目の理由は、子どものための哲学という方法を用いて生徒の間に道徳的関係を築くことである。子どものための哲学は、モンクレア州立大学のマシュー・リップマンが生み出した教育である。リップマンの方法が世界各国で、文化に溶け込みながら実践されている。その中でもハワイ州でトーマス・ジャクソンが中心となり実践されている子どものための哲学に注目する。ハワイ型は、互いの意見を聴き尊重することを基盤とする、哲学をもとにした探究活動であることを特徴としている。この方法によって自己理解・他者理解を深めることができると考え、単元として設定した。

(2)生徒観 (平成26年12月 アンケート実施 2年1組 男子19名 女子20名 合計39名)

・子どものための哲学で行う対話は好きですか。また、その理由を書いてください。

好き 17名 まあまあ好き 18名 あまり好きではない 4名 嫌い 0名

楽しい 他の方の意見が聞ける 自分ではよく分からないことが他の人の意見を聞いてはっきりする 自分の意見が言える クラス全体を見渡すことができる 自分の考えが広がる 色々な視点から考えることができる など

・安心して対話できていると思いますか。

いつも安心できる 2名 だいたい安心できる 31名 たまに安心できる 5名 安心して話せない 1名

・対話を行うことで深く考えることができますか。

いつも 8名 ほとんど 23名 たまに 7名 あまりできていない 1名

・グローバルキャリア人とはどんな人だと思いますか。

世界で活躍する人 自分の地域と海外のことをよく知っている人 自分の考えを他の人に伝えられる人 など

対話を好む理由として「他の人の意見が聞ける」といった肯定的な回答が多く出された。方法観で詳述するが、輪になって話すことで互いの反応を見ながら対話できる。その中で、生徒たちの内に着実に他者を尊重する姿勢が養われてきたと言える。しかし、クラス全員が安心して話せる環境を実現するには至っていない。さらに、対話に対する姿勢を指導し、安心できる環境の実現を目指す。

(3)方法観

それぞれの生徒の関心から問いを立てるためにアンケートの一項目「グローバルキャリア人とはどんな人だと思いますか」の回答をまとめたプリントを用意し、そのプリントを読ませて、そこから個人で自分の疑問・関心から問いを立てさせる。個人で立てた問いを全体に発表する中でそれぞれの関心を確認し、その中で最も対話するのにふさわしい問いを多数決で決める。対話の最後に、生徒たち

の自己評価をワークシートの項目に合わせて行わせる。

コミュニティボールと呼ばれる毛糸玉を使って、持っている人が話すというルールで対話を行う。ボールによって、聴く対象を明示できる。子どものための哲学の目的・理念をトーマス・ジャクソン「やさしい哲学探究」(拙訳)から引用する (<http://p4c-japan.com>で全文を読むことができる)。

対話の最も重要な特性は、問いかけることではありません(まして問い詰めることでもありません)。それは、聴くことです。対話における第一の関心事は、反論することでも、討論することでも、反対することでも、相手を導くことでも、前提を暴くことでもありません。心から、シンプルに、聴くことなのです。……教師は、指導者や智者というよりも、対話を重ねながら子どもたちと**共に探求する者**になるのです(Thomas E. Jackson, "Gently Socratic Inquiry", 2001, p.4, 下線・太字は原文通り)。

つまり、教員もその一部となるような聴き合う関係を作ることを目指すのである。聴き合う関係の中で探求を行うには「知的安全」を打ち立てねばならない。

知的に安全な場所には嫌がらせはありません。蔑み、傷つけ、否定し、価値を下げ、嘲ることを意図して発言することも許されません。この場所では、輪になった他のメンバーに対する敬意が存在する限りにおいて、ほとんどどんな質問も、発言も受け入れられます。……知的安全について重要なのは、様々な探究のうちに現れる意見の多様性をきちんと認めることです。知的安全のある程度は、この多様性を認め、受け入れることから生まれます。「正しい答えも間違った答えもない」とか「どんな答えでもいい」ということと同じではありません。生徒は、答えを裏付けるための理由を、あるいはよく考え抜かれていない状態の理由さえ提示できないこともあるでしょう。ある答えの意味やその答えの暗黙の前提を他のメンバーが十分に理解できないこともあります。誰かが答えたことについて考えるためには、その答えに伴う数々の基準を理解しなければならない。そのことを、時間をかけて、子どもたちは理解していきます。……探究の目的は誰かがある答えに説得することではありません。問題の複雑さをより深く理解するようになり、その複雑さの最中であつても進んでいこうとする能力を手に入れることが大切なのです(Ibid., p.5)。

知的な安全は、多様性を認め、他者を理解することそのものなのである。探究のプロセスの中で他者を理解し、尊重する姿勢は、グローバル化の中で最も重要な、他国を理解し、尊重する姿勢につながる。自分の関心から立てた問いを探究する活動自体が他者を尊重する道徳的態度、グローバルキャリア人に必要な態度を養うのである。そのために、教員はファシリテーターとして対話に参加し、ほとんどの場面を聴き役に徹する。安心できる環境を壊す不適切な発言はないかに注意し、批判的に思考できているかに注意しながら、生徒に対話させる。

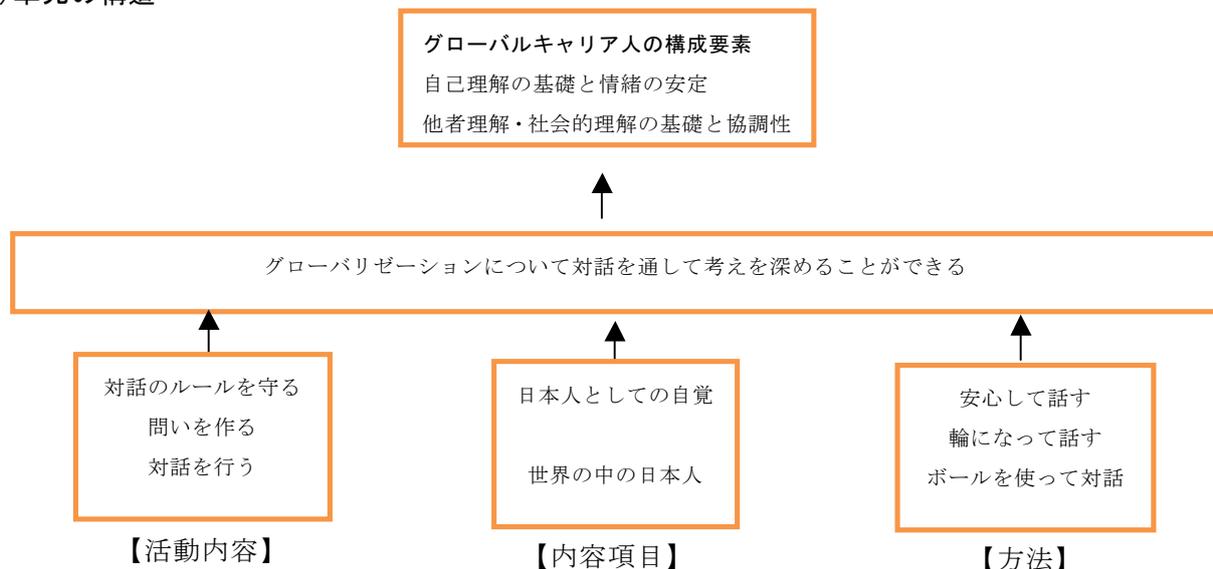
4. 単元のねらいと構造

(1) 単元のねらい

グローバル化について自分の関心から問いを立てることができる。

問いについて、対話のルールを守り、適切に聴き、発言し、考えを深めることができる。

(2) 単元の構造



5. 単元の展開 (全 10 時間)

時	主題	ねらい
	<p>始</p> <p>事前調査</p>	<p>ねらい</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対話への意欲・関心に関する質問 2. 対話のルール, 深まりに関する質問 3. 道徳の授業, グローバルキャリア人に関する質問
【1次】 1時 ～ 3時	コミュニティボ ールを作る	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分について話すことができる。 2. 他の人の話を聞くことができる。 3. コミュニティについて考えることができる。 4. どんな時に安心して話せるのかを考えることができる。 5. ルールを守って話し合うことができる。
4時 5時	クラスで対話	<ol style="list-style-type: none"> 1. 問いを立てて, 対話することができる。 2. 対話を適切に評価することができる。
【2次】 1時	問いを立てる	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の興味・関心から問いを立てることができる。 2. クラスで探求するために適切な問いを立てることができる。
2時	学年全体で対話	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の意見を話すことができる。 2. 他のクラスの対話を聞き, メモを書くことができる。 3. 他のクラスの対話を適切に評価できる。
3時 4時	クラスで対話	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分たちで作った問いを探求することができる。 2. 人の話を聞き, メモを書くことができる。 3. 対話を適切に評価することができる。
【3次】 1時 2時	グローバリゼー ションについて問い を立てる	<ol style="list-style-type: none"> 1. グローバルキャリア人についてのアンケート結果をもとに問いを立てることができる。 2. 問いを吟味することができる。 3. クラスで探求するために適切な問いを選ぶことができる。
3時 本時	クラスで対話	<ol style="list-style-type: none"> 1. 前時で立てた問いについて対話することができる。 2. 他の人の話を聞いて, メモを書くことができる。 3. 適切に自己評価することができる。
	<p>事後評価</p> <p>終</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対話を行うことで考えが深まったかどうかの調査 2. グローバリゼーションについて考えが深まったかど うかの調査

6. 本時の学習 (3次3時)

(1)主 題 クラスで対話

- (2)ね ら い
1. 前時で立てた問いについて対話することができる。
 2. 他の人の話を聞いてメモを書くことができる。
 3. 対話を適切に評価できる。

(3)教材観・方法観

前時で決めた問いについて対話を行う。対話が始まれば、指導上の留意点に記載されているような質問例によって、適切な介入を行う。問いに対する絶対の答えはなく、基本的にオープンエンドで授業を終わり、ワークシートで自己評価をする形で授業を締めくくる。

(4) 本時の流れ

時	学習の流れ	生徒の活動	指導上の留意点 ・ 評価
0	主題・ねらいの確認	○本時の主題とねらいを確認する。	
3	問いの確認	○前時で出された問いの意味を再度確認する。	○本校教育目標のグローバルキャリアについての対話であることを意識させる。
8	対話スタート	○コミュニティボールを使って対話する。 ○ボールを持っている人が話すというルールを守って対話する。 ○批判的に考える。	○声の大きさが適切であるかに注意する。 質問例「今の発言は聞こえましたか？」 ○安心して話せているのかを確認する。特定の個人への不適切な発言はないか、発言の平等性は守られているか。 質問例「安心して話せていますか？」 ○批判的に考えるために対話が「理由・前提・意味・例・反例・推論・真偽」を意識しているかを確認する。 質問例「理由はなんですか?」「その意見に前提はありますか?」「……という言葉の意味はどのようなものでしょうか?」「……という意見が当てはまる具体例はありますか?」「その意見に反例はありますか?」「……ということは、……ということでしょうか?」「……という意見は本当でしょうか?」
45	対話の自己評価	○ノートに他の人の発言を記入する。 ○ワークシートを使って対話を自己評価する。 ・対話には参加できたか。 ・話し合いに発見はあったか。 ・グローバル化について考えることができたか。	
50			